ひきこもり相談支援室を開設

社会とつながる一歩へ 本人・家族をサポート

全国でひきこもり状態にある15歳～64歳は推計146万人――内閣府が令和4年度に行った調査で発表された数値です。

ひきこもりは、学校や仕事に行かずに家族以外との交流がほとんどなく、おおむね6カ月以上にわたって自宅にとどまり続けている状態。当事者は、自尊感情やより良く生きる意欲を失っている場合も少なくありません。

安心して過ごせる居場所の整備も

市は、ひきこもり状態の人への支援を行うため、今年度から「ひきこもり相談支援室」を開設しました。市の担当部署や関係機関などと連携し、相談体制を強化。本人と家族の不安を受け止め、一人ひとりに合った支援に取り組みます。

併せて、居場所支援もスタート。気軽に利用でき、安心して過ごせる場を提供し、社会とのつながりを回復するための第一歩を後押しします。

まずはゆっくりとエネルギーの回復を

小川 司　ひきこもり支援コーディネーター

ひきこもりを「怠けているだけ」「親の甘やかし」と思う人もいるかもしれませんが、それは誤解であり偏見。一人ひとり要因はさまざまで、誰にでも起こりうることです。

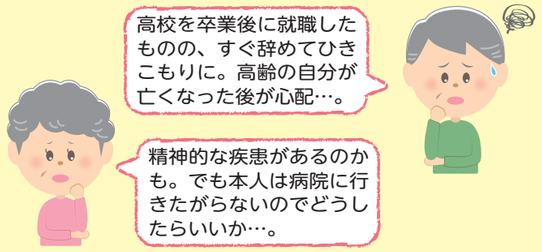
ひきこもり状態の人には、家族や周囲の人が理解し、当事者が安心できる環境を整えることが大切です。ゆっくりと心と体のエネルギーを回復し、段階的に社会とのつながりをつくっていくためにサポートしていきます。家族だけで抱え込まず、気軽に相談してください。

ひきこもり相談支援室 ☎86・0243

保健師や社会福祉士などの資格を持つ職員が相談を受けます。

日時＝平日午前8時30分～午後5時15分（年末年始を除く）　**場所**＝社会福祉センター「トモシア」2階

家族からこんな相談が寄せられています



ふらっと立ち寄れる居場所 こんぺいとう

日時＝毎週木曜日午後1時～4時　**場所**＝三ツ郷屋2丁目3－11（越路ハイム地域生活支援センター内）　問☎27・4266、Eメールibasyo-conpeito@sutokukai.or.jp

開いている時間なら、いつ来てもいつ帰ってもOK。絵を描いたり本を読んだり、思い思いの時間を過ごせます。

ひきこもり支援の地域資源ガイド

当事者や家族の力になる支援機関・団体を紹介しています。ひきこもり相談支援室で配布するほか、市ホームページ（右）でも見ることができます。

NAGAOKA News

市政の最近のできごとを紹介します。

ホノルルの中学生と平和交流

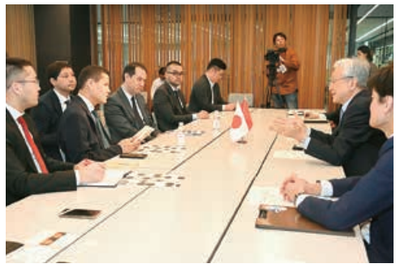
姉妹都市・ホノルル市のミリラニ中学校の生徒15人が南中学校を訪れました。ウイルス禍にオンラインで平和学習を行ってきた両校。戦災資料館の見学やレクリエーションなどで平和への理解と友情を深めました。（5月11日～13日）

子どもの読書活動で大臣表彰

中央図書館が「子供の読書活動優秀実践図書館」として、文部科学大臣表彰を受賞。ボランティアの協力による読み聞かせや、司書が薦める絵本セットの貸し出しなどの取り組みが評価されました。（4月23日）

生ごみ由来の肥料で資源循環を実現

市内で収集した生ごみをメタン発酵させ、発電した後の残留物を「寿メタンバイオ肥料」として配布を始めました。肥料を使って農産物を生産し、市内で消費することで、資源の完全循環を実現します。（4月21日）



キルギスとの交流さらに深まる

人材交流の実現に向けて協議を続けるキルギス共和国の大学関係者や駐日大使らが長岡を訪れました。一行は長岡工業高等専門学校や長岡技術科学大学を視察。教育プログラムや学生交流をテーマに意見を交わしました。（4月16日）

起業支援を強化！アドバイザー着任

事業開発コンサルティングを行う㈱イードアと協定を締結。同社社員の河野一樹さんが、市のスタートアップ推進アドバイザーに着任しました。起業を目指す人やベンチャー企業の支援を強化します。（4月18日）

県内最多！6つ目のマンホールカード

花火や長生橋などが描かれたマンホールデザイン「長岡の四季」のカードをミライエ長岡で配布中です。市内では6つ目のカード化で、種類は県内最多に。配布初日には、市内外から訪れた人が行列をつくりました。（4月26日）